

「End Of Life」

坂口 裕靖

「そんでどう、最近？やっぱりあれ？山パンの食ってるわけ？」「うすまきロールケーキですか？もちろんですよ、もう毎日」「よく飽きないねえ...あれほら、バタークリームじゃん？重くない？」「そこがイーンじゃないですか〜。今どきバタークリームなんてめったにお目にかかれませんよ」「まあそうかもね」「それに生クリームがよければ、今どきいくらでも生クリームのスイーツがあるじゃないですか。あのバタークリームのねっとりしたところがイーンですよ」「そんなもんかね...ところでさ、あっちは大丈夫？ほら CentOS7」「あーはいはい。ついにこの6月30日でメンテナンス更新も終わっちゃいましたよねー。ジ・エンド・オブ・ライフですわ」「アイナ？」「まあそんなもんです。EOL ってやつですね」「生活の質？」「それは QOL。EOL ですよ」「わかってるってさあ...いやでも、そもそも

CentOS ってさ、10年サポートってやつだったじゃない？実際にサポートされてたのかな」「ええ、5.x、6.x、7.x については約束通り10年サポートしてくれてました。大変ありがたいことです」「でもさ、コンピュータの世界で10年ってすごく長いじゃない？ビジネスの世界だとまあそこまで長くない感じがするけど」「そうですね、だからこの長いサポート期間を利用して、さっさと新しい環境に移行しろよ、というのが本来の意味だったんじゃないかと思えます」「ふーん」「今から10年前って言うと2014年じゃないですか。iphone6とかSTAP細胞とかですよ」「う、うん...そうだね」「まあクラウドでやってるとあんまり気にする必要無いんですけど、物理サーバ持ってて運用しようとする、やっぱり減価償却期間ぐらいは使いたいじゃないですか。そうすると、6年以上のサポート期間

がないとやっぱり不安ですよ」「そんなもん？だいたいさ、linuxの系統だったら古いマシンほどインストールしやすいんじゃないの？」「そうですね、OSという意味では古いほうがやりやすいのは確かです。でも、周辺機器の方はそうでもないです。意外と地味に陳腐化が進むんで、対応するデバイスがあつという間に絶滅したりしますから、気をつけないとイケません」「そうかー」「なんで、物理サーバは最初に通りのデバイスを多重化してストックしておいて、壊れたら差し替える方向で運用するのが安全ではあります。一方で、そうすると特定の環境がサポートされることが必須となるため、結局は減価償却期間中は最初の状況に戻るようにするのが精一杯。ところが、セキュリティパッチのことを考えると、いつまでも古いバイナリで動かし続けることは大変危険です。だからこそ、長期サポートが

One Point BUZZ WORD

慇懃と Hsync

スライディングタックル損害賠償金のうち不明だった29,700円の件、続報です。こちらに来た書類にはサイタマスバルに93,550円振り込まれ、その他はゼロ円と書いてあったのですが、示談条件の部分には損害賠償金として173,250円を支払う、うち50,000円は向こうの運転者が支払うとかいてありました。向こうの保険屋さんに電話してみたところ、大変慇懃な対応をされました。それによると、そもそも修理費用は143,550円だったそうで、93,550円は保険会社がサイタマスバルに振り込んだ金額である、ということでした。残額の5万円は向こうの運転者が負担したとのこと。で、残りの29,700円がどこに消えたかという話になるのですが、これは代車費用としてレンタカー屋さんの口座に振り込んだということでした。じゃあなんで「当

社がお支払いする口座」の欄に明記が無いのか聞いたら、ミスとのこと。ミスなら、これも明記された書類を下さいよと言ってみたところ、出せませんの一点張り。弊社のミスだが謝るつもりも書類を出すつもりもない、瑕疵じゃないもん、という意味内容を大変慇懃に延々述べられました。とりあえずレンタカー屋さんに教えてもらって代金を確認したところ、29,700円だったということで、無事解決。

さて、7年目、3回目の車検の時機がやってまいりました。今回はタイヤ交換しろってことで結構な値段になりました。また、調子が悪かったパワーウィンドウのスイッチも交換してもらうことにしました。一方で、現在ドライブレコーダーが「ピーーピーー」と音を立てる事象が発生しています。ディーラーによれば録画できない時に発生する警告だそうで、実際バックカメラの映像が乱れてると発生しているようです。具体的には Hsync が外れて左にスクロールしてる感じで、たまにうまく写るともターミネータが入ってないような感じの映像。こちらも早急に直したいところですが ...



気になるわけですよ」「ふーん。でもさ、だったら RHEL とかにすればいいんじゃないの?」「お客先に言って下さい」「あそうか。まあね、普通にパソコン使ったら、OS にお金がかかるっていうのは実感しないよね」「そうですね。今どきのノートパソコンは基本的に OS もセットで買ってくる人が多いですし、意識しなかったら OS の値段とか、セキュリティサポートにかかる費用とか見えないですもんね」「まあ目を瞑ってるというのはあると思うけど」「まあそれはそれとして。一方で、物理サーバではなくクラウド上で運用する場合、ここいらへんはだいぶ気にする必要がなくなります。1 時間あたりのコストも割と安めなので、まずは 1 台立ち上げといて、必要に応じて足したり引いたりできるのがいいところですね」「まあそうだけど、だからって同じ環境使い続けるわけにはいかないでしょう?」「そうですね。最初からうまく機能とストレージを分割して設計しておく、部分ごとに OS のアップデートができたりするので、その意味ではアップデートがやりやすいです。一方で、本来 1 台ですむ構成を何台かに分割すると、コスト面で受け入れられるかどうかは微妙な問題があります」「ふーん。ところでさ、CentOS7 が EOL なら、どうすればいいわけ?」「これが結構ややこしいですね」「あ、そうなの?」「まず CentOS7 の直接の後継・だった・、CentOS8 はダウンストリームからアップストリームに変わっちゃいました」「ん? どういうこと?」「CentOS7 までは、RHEL のダウンストリーム、つまり RHEL でリリースしたものを受けて、必要な変更を加えて CentOS としてリリースしてたんですよ。そうすると、RHEL で揉まれてからという話になるので、当然安定方向ということになりま

す」「ふーん」「一方 CentOS8 系以降は、逆に CentOS が人柱となってあれこれやった後に、その上澄みを RHEL が取り込んでく形になりました。そうすると、最新方向になるため、不安定になりやすそうじゃないですか」「まあ人柱だからねえ ...」「なんで、CentOS8 系はあまり好まれていません。そうすると、RHEL9 の系統のダウンストリームなディストロを選ぶのが現実的ということになります」「ふむふむ」「具体的には alma linux9 とか、rocky9 とかでしょうか。いずれも RHEL9 ベースなので、CentOS7 からの移行も比較的楽なはずですよ」「まあでも、違いはあるんですよ?」「そうですね、どちらかというところから 9 系統への変化が大きくて、そこに手こずる感じでしょうか。具体的に、例えば systemd がデフォルトとか、xinetd がないとか、まあ色々」と「ふーん」「でもですね、そこへ CVE-2024-6387 ですよ」「ん ... 何それ?」「ssh の ...」「ふばっ!」「ああ ... えーと ... あのですね、ネットワーク越しにメンテナンスするのに必要な ssh っていうのがあってですね」「はい ...」「で、その脆弱性が見つかったのが CVE-2024-6387 です。具体的には、ネットワーク越しに認証なしの特権で任意のコードを実行されうという」「まずいの?」「まずいです。やられ放題になっちゃいます」「そうなんだ ...」「でですね、これがアナウンスされたのが、なんと 7 月 1 日」「へー。EOL の翌日か」「そうなんです。しかもですね、CentOS7 にはこの脆弱性がないのに対して、RHEL9 系統には脆弱性があるという」「なんと ...」「EOL を回避しようと RHEL9 系にアップデートしたら、この脆弱性に捕まるという皮肉な状況だったのです」「そうなんだね ... でもさ、セキュリティパッチとか出たわけでしょ?」「それがまた皮肉な

ことに、RHEL 系列だけ出てなかったんですね、これが ... ubuntu とかはアナウンスされた当日にアップデートすればよかったんですけど、RHEL9 系統は 7 月 3 日まで出てこなかったんです」「ふーん。そんなこともあるもんなんだね」「そうなんですよ。まあでも出してくれたのは大変ありがたいです」「まあそうだね、フリーライドしてる側がなんか言えた義理じゃないけどさ」「まあ、確かにフリーライドではあるんですけど、この穴が塞がってないマシンは攻撃者の手先に改造される可能性があるわけで、そうすると加害マシンとなる可能性があるわけですよ」「ほう ... そういやそうか」「ほう、ちょうどコロナとおんなじ理屈で、これって基本的に公衆衛生的な問題なわけですから、逆にフリーライドしてるマシン群が適切に対処してもらうことが、インターネット全体から考えると大変重要だったりするんです」「あれか。全世帯にマスク配るようなもんか」「ええ、まあそんなところですよ」「しかしこういう脆弱性って良く見つけるよね」「今回は ssl の確認ツールとか提供してくれてる Qualys が見つけたみたいなんですけど、実はこの脆弱性、過去に一回見つけて対応された経緯があるものの、最近のバージョンで復活しちゃったやつなんです」「あーエンバグカー ... あるよねー ... 人間だもの」「特定のコード区間で使っちゃいけない関数を使ったのが原因らしいですよけど、複雑ですよ」「まあでも、これが EOL ではない環境のありがたさだね」「まあ CentOS7 は被害をまぬがれてますが」「アクションブリケ」

Hiroyasu Sakaguchi
フリー IT エンジニア